

避難所運営訓練・未来フェスタ・アンケート調査結果（まとめ）

1. 訓練の参加者

●上丸子小学校参加者のうち、60歳以上で約7割を占め、20年以上中原区に住んでいる方が約8割であった。

●中原中学校では、中学校の部活動などと連携して実施していたことから、20歳未満の参加者が33.1%（49名）もあった。

⇒上丸子小学校では、訓練の参加者が住民組織に近い方が中心であったため、中原区に長期に居住し、高齢者ほど訓練に参加する結果となった。若い世代の参加者が少なかった原因は、学校との連携が少なかったことが考えられる。

2. 訓練への参加実態

●避難所としての地区訓練を初めて実施した上丸子小学校では、初めて訓練に参加した方が7割と大多数を占め、久しぶりに訓練に参加した方を加えると94%に達した。

●中原中学校では、初めて訓練に参加した方が39.2%であり、定期的に訓練に参加している方が36.5%、久しぶりに訓練に参加した方が24.3%であった。

●未来フェスタの参加者は30代、40代で約8割を占めていたが、防災訓練に参加したことがない方が半数を超える55%に達した。

⇒訓練を実施していない地区では、多くの方が防災訓練の未体験者と想定されるため、訓練の実施を呼びかける必要がある。

また、若い世代では防災訓練に参加したことがない方が多くいることが推測される。

3. 町内会・自治会の動員力

●上丸子小学校参加者のうち84%の方が「町内会の役員にすすめられた」ことを理由に訓練に参加しており、町内会・自治会の動員力があることがうかがえる。

●中原中学校参加者では、31.8%の方が「町内会の役員にすすめられた」ことを理由に訓練に参加しているとともに、学校の部活動の声掛けにより参加した方が約4割いたこともあり、双方の呼びかけ方法に動員力があることがうかがえる。

⇒町内会・自治会の訓練への動員力があることが分かった。また、中学校の部活動と連携した中原中学校では20歳未満の参加者が3割を超え、学校と連携することで若い世代の参加が得られることが分かった。

4. 防災情報の入手先

●上丸子小学校参加者では、「町内会・自治会の会合（37.5%）」「町内会・自治会の回覧板（25%）」「町内会・自治会の掲示板（22.7%）」と町内会・自治会関係の伝達手段が多かったのに対し、インターネットやインターネットメールによる情報入手をする方は各2.3%にとどまった。

●中原中学校参加者では、「町内会・自治会の回覧板（29.3%）」「町内会・自治会の会

合（22.7%）」「町内会・自治会の掲示板（12.4%）」と町内会・自治会関係の伝達手段が多かったのに対し、インターネットやインターネットメールによる情報入手をする方が8.9%と7.1%と多かった。これは中学生の参加者が多かったことが理由と推測される。

●未来フェスタの参加者では、インターネットを使って防災情報を入手している方が、26.1%に達した。また、「町内会・自治会の回覧板（34.8%）」「町内会・自治会の掲示板（22.5%）」と町内会・自治会関係の伝達手段も多かった。

⇒若い世代に対しては、インターネットやインターネットメールによる情報伝達は効果があることが分かった。特に、町内会・自治会に加入がない世帯では回覧板がまわってこないことからインターネット等は有効なツールと推測される。また、未来フェスタの回答から、若い世代でも「町内会・自治会の回覧板・掲示板」により情報を入手している方が多く、有効な手段であることが分かった。

5. 訓練に参加した感想

●上丸子小学校参加者では、「防災の大切さを知る機会となった（21%）」「災害時の行動について知る機会となった（17%）」「災害時の防災組織の活動について知る機会となった（23%）」「より多くの人に参加できるようにすると良いと思った（18%）」など防災訓練の実施により何らかを発見する機会と感じた方が多くいたことに対し、「地域全体で連携することが難しいと感じた（16%）」方も多数いた。

●中原中学校参加者では、「防災の大切さを知る機会となった（31.3%）」「災害時の行動について知る機会となった（26.7%）」「災害時の防災組織の活動について知る機会となった（11.5%）」「より多くの人に参加できるようにすると良いと思った（19.8%）」など防災訓練の実施により何らかを発見する機会と感じた方が多くいたことに対し、「地域全体で連携することが難しいと感じた」方は、7.6%であった。

⇒上丸子小学校では、「訓練に参加して得たものが多くあった」と多くの方が感じていた。その一方で「地域での連携の難しさ」を感じた方も多かった。

6. 災害に対する備え

●上丸子小学校参加者では、「何も備えていない」方が13.8%であった。

●中原中学校参加者では、「何も備えていない」方が15.1%であった。

●未来フェスタの参加者では、「何も備えていない」方が22.7%であった。

⇒若い世代の参加者が多い未来フェスタ、中原中学校の方が高齢層が多かった上丸子小学校に比べて、「何も備えていない」人が多かった。

7. 避難場所・避難所の認知度

- 上丸子小学校参加者では、4%の方が自分の避難所を知らなかった。
- 中原中学校参加者では、2.7%の方が自分の避難所を知らなかった。
- 未来フェスタの参加者では、27.9%の方が自分の避難所を知らなかった。
⇒訓練参加者の方が避難所の認知度が高い。また、若い世代では避難所を知らない方が多いことが推測される。

8. 防災マップなどの認知度

- 上丸子小学校参加者では、「防災マップなどを見たこともない」人が12%に達した。
- 中原中学校参加者では、「防災マップなどを見たこともない」人が22.3%に達した。
- 未来フェスタ参加者では、「防災マップなどを見たこともない」人が28.9%に達した。
⇒若い世代ほど防災マップなどを持っていない方が多いことが推測される。

9. 災害時の要援護者の救助

- 上丸子小学校参加者では、「助けられるようなら助け合う（48%）」「近所の人と一緒に助け合う（26%）」「積極的に助け合う（14%）」を合わせると約9割に達した。
- 中原中学校参加者では、「助けられるようなら助け合う（29.7%）」「近所の人と一緒に助け合う（23.6%）」「積極的に助け合う（21.6%）」を合わせると74.9%に達した。
（無回答14.9%あり。）
- 未来フェスタ参加者では、「助けられるようなら助け合う（37.1%）」「積極的に助け合う（28.6%）」「近所の人と一緒に助け合う（27.5%）」を合わせると約9割に達した。
⇒世代を問わず、共助の意識が高い結果となった。

10. 防災に関して知りたい情報

- 防災マップや災害予想図がほしい。

11. 避難所運営訓練に参加した今後の課題

- 訓練の継続が大切